令和5年度　教育事業「生活・自立支援キャンプ」

「のびのびキャンプ in 秋さんべ」

１　趣旨

母子家庭の親子が三瓶地域に関わる自然体験活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、親子の親睦を深めるとともに、子供たちの基本的な生活習慣の確立を目指す。

２　事業の概要

（１）期間

令和５年１０月２１日（土）～ ２２日（日）＜１泊２日＞

（２）会場

国立三瓶青少年交流の家

（３）協力

島根県健康福祉部青少年家庭課

（４）対象

母子家庭の親子

（５）参加者

４６人（１９家族）　※募集２０家族５０人程度（３４家族８３人応募）

（６）日程・内容

時間	１０月２１日（土）	時間	１０月２２日（日）
１１：３０	受付・はじまりの会	６：３０	起床
	レクリエーション	７：００	朝のつどい
１２：２０	昼食（ビュッフェ）	７：２０	クリーンアップタイム
１３：３０	交流の家　発	７：４０	朝食（ビュッフェ）
１４：２０	赤来観光りんご園　着	９：２０	自然散策
	りんご狩り（雨天決行）		（雨天時：カプラ）
１７：１０	夕べのつどい	１０：２０	（母親）親学プログラム
１７：３０	夕食（ビュッフェ）		（子供）スタンプバッグづくり
	入浴	１２：００	昼食（ビュッフェ）
１９：３０	神楽鑑賞	１３：１５	おわりの会
２０：３０	就寝	１４：００	退所

３　事業の特色

（１）プログラムデザインと企画のポイント

① 三瓶周辺地域の価値ある教育資源を活用した体験活動

本事業では、当所が所在する三瓶地域及びその周辺地域の価値ある教育資源を活用した体験活動の提供をコンセプトにプログラムを設定した。また、ひとり親家庭であるために母親だけではなかなか子供たちを連れて行くことができず、体験する機会が少ないと思われる活動を取り入れることを心掛けた。

【りんご狩り】

三瓶地域の近隣市町村である飯南町の「赤来高原観光りんご園」において、りんご狩り体験を行った。このりんご園では、9 月上旬から 11 月中旬にかけてりんご狩りを楽しむことができる。本事業の開催日は、まさにりんごが旬の時期であり、参加者は多くの種類のりんご狩りを通して、秋の味覚を堪能することができると考えた。また、ふだんの生活ではなかなか体験できないと思われるりんご狩り体験は、参加者にとっても真新しく興味関心の高い活動であると考えた。

【神楽鑑賞】

当所が所在する大田市三瓶地域の「多根神楽団」に出演を依頼し、神楽鑑賞を行った。「多根神楽団」は、古くから地元の方に親しまれており、大田市の日本遺産の構成文化財の一つとなっている伝統ある神楽団である。今回の参加者が島根県の様々な地域からの参加ということもあり、三瓶地域の伝統芸能を楽しんでもらう良い機会と捉え、この活動を設定した。

【自然散策】

秋の自然の中で親子が一緒に行う自然散策を設定した。この秋の時期、当所の周辺には、赤く色づいたもみじや金色に輝く銀杏の木などの自然が広がっている。ゆとりある時間設定の中で、親子でゆっくり歩きながら葉っぱ拾いをする時間を設定した。拾った葉っぱは、その後の子供たちによる木の葉のスタンプバッグづくりでも活用した。完成したスタンプバッグは、母親へのプレゼントとし、親子で秋の自然を楽しむとともに、イベント参加の思い出作りにつながるようにした。

② 親学ファシリテーターによる親学プログラム

本事業では、例年、母親だけが集まって、交流する「カフェタイム」の時間を設定していた。子供たちが別会場で活動している間、母親たちは茶菓子を食べながら、ふだんの生活の様子や困っていること、他の母親に聞いてみたいことなど、ざっくばらんに話ができる場をつくることをねらいとしたものである。

今年度は、今までのカフェタイムの実施方法を踏襲しながら、親学ファシリテーターによる「親学プログラム」を実施した。「親学プログラム」とは、島根県立東部・西部社会教育研修センターが行っているプログラムであり、主に乳幼児から中学生までの子供をもつ親（保護者）を対象に、親としての役割や子供との関わり方の気付きを促すために活用する学習プログラムである。

親を対象としたプログラムの実践経験豊富なファシリテーターがプログラムを提供することにより、参加する母親たちが他の母親と子育てについての話を深め、より心を開いた交流ができるのではないかと考えた。

そして、子供のしつけや叱り方について悩んでいる母親が多いと考え、「親のしつけは子供への大切な贈り物」をテーマとし、子供への関わりにおいて大事にしていることを話し合う時間を設定した。ひとり親家庭で子育てについての責任を一身に背負っている母親たちが他の母親との交流の中、プログラムの最後には「頑張っているのは自分だけではないんだな。」と思うことができたり、子育てについての困り感を減らしたり、肩の荷を下ろしたりできる時間にしたいと考えた。

（2）運営（連携）及び広報のポイント

・母子家庭の親子が参加対象である本事業の特性や留意点を把握している法人ボランティアに直接声を掛け、事業参加を依頼した。当所職員を含め、このようなボランティアをスタッフとすることにより、参加者に対してより細やかに接することができるよう努めた。
・小さな子供のいる参加家族も多いため、早めに就寝したい家族もいると考え、就寝時間を 20 時半と設定するなど、ゆとりある時間設定を行った。
・今年度も、島根県健康福祉部青少年家庭課ひとり親支援グループと連携した。主に広報活動を依頼し、島根県の全市町村への本事業のチラシや開催要項の配布を依頼した。また、メールマガジン等で本事業のお知らせを掲載していただき、多くの方に本事業の情報が届くようにした。
・「赤来高原観光りんご園」「多根神楽団」「親学プログラム」などで多くの機関、団体と連携して事業を行い、より魅力的な専門性の高い体験活動を行うことができるようにした。

4 参加者へのアンケート結果

（1）アンケートの集計 （%）

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	89.5	10.5	0	0
プログラム	78.9	21.1	0	0
運営	89.5	10.5	0	0
職員の対応	94.7	5.3	0	0

（2）参加者の声

○　りんご狩りや神楽鑑賞は、母も子も楽しめて大満足でした。

○　ふだん子供と一緒にいる時間が少なく、出かけることもあまりないのでこのような事業に参加できてとてもよかったです。

○　なかなか母一人では、どこへも連れて行ってあげることができないため、このようなイベントは大変ありがたいです。

○　親学プログラムでは、たくさんの方と子育てについて話し合うことができ、子育てについての相談ができた。

○　話をすることで少し気持ちが楽になりました。

○　食事等も子供主体で作れる企画や子供たち同士での交流活動がもっと多いとより楽しめると感じました。

5　成果と課題

＜成果＞

・りんご狩りや神楽鑑賞の活動では、「母も子も楽しめて大満足でした。」という感想があったことから、多くの方が楽しく活動できたことが分かった。

・「なかなか母一人では、どこへも連れて行ってあげることができないため、このようなイベントは大変ありがたいです。」というアンケート記述から、子供の活動を見守る親が一人しかいない状況では、なかなかできない体験活動を提供することができた。

・親学プログラムについては、「たくさんの母親と子育てについて話し合うことができ、子育てについての相談ができた。」や「少し気持ちが楽になりました。」というアンケート記述から、本活動のねらいとして設定していた「子育てについての困り感を減らしたり、肩の荷を下ろしたりできる」時間となったのではないかと考える。また、地元大田市在住の「親学ファシリテーター」とのつながりができた。

・「またこのイベントに参加したい。」というアンケート記述もあり、本事業を楽しみにしている方もいることが分かった。

・本事業には、抽選が必要なほど多くの申込みがあった。また、新規の方の申込みが多かったことからも、改めて本事業に対するニーズの高さを知ることができた。

＜課題＞

・アンケート中には、「野外炊飯に取り組み、自分たちで作るご飯をたべたい。」というような記述が見られ、炊飯活動に関心があることが分かった。そのようなニーズにも目を向け、安全面での支援体制を検討しながら、来年度以降の事業計画の参考にしていきたい。

・母親同士の交流の場を設定したが、「子供同士の交流活動がもっとあるとよい。」という記述があった。一つ一つの活動プログラムの中においても、子供同士が交流できる活動を意図的に設定していきたい。

（担当：企画指導専門職付　中谷　康希）